



左から伊藤喜右エ門氏、丸山与一郎氏、浅田周宏氏、澤田豊明氏、飯田肇氏（写真撮影深井）

アカタン砂防登録有形文化財登録記念シンポジウム 砂防フィールド・ ミュージアムを 考える。

新潟・岐阜・富山・福井・京都の 砂防施設が交流シンポジウム

6月26日アカタン砂防登録有形文化財登録記念シンポジウムが今庄町古木リゾートからで開催された。歴史的砂防施設を利活用しながら地域の振興に役立てようと田倉川と暮らしの会が呼びかけた。

同じ理想で活動している団体と、最大のフィールド・ミュージアムをもつ立山カルデラ博物館や砂防の専門家が活動発表や課題と方向性など話し合った。

伊藤会長は開会に先立ち、「各地からの参加に感謝。砂防遺産を有効に活用する方向性を探りたい。」と挨拶した。

西村今庄町長は、「全国の砂防関係者とお会いできたことは、先人たちがアカタン砂防施設を造ってくれたおかげ。先人たちに感謝している。同じ思いで活動している皆さんと知恵を出し合い連携し、互いの地域が少しでも元気になるよう期待している。」と歓迎した。

これに対し、27名が参加した新潟県団長の**新井砂防事務所真田所長**は、「新井市は地滑りの大発生地で、毎年多くの災害が起きていた。それをくい止めるため人柱まで行った。地域の4割が地滑り地帯で、ここも高齢化や廃校と地域が衰退している。山間地の地域振興を考えるために先輩の田倉にやってきた。」と応えた。

そして**澤田**コーディネーターの進行で活動発表や意見交換が行われた。

伊藤氏 1998年7月から明治の砂防施設を発掘し始めた。100年前からほったらかしだったので、雑木や藪ですっぽり覆

われ住民から忘れ去られていた。私たちは6年近くかけて、すべての堰堤の草刈りや雑木の伐採を行い、当時の姿が蘇った。

丸山氏 新田と西野谷は64戸236人の雪の多い集落で豪雪では5mを経験している。万内川の水はきれいでも米や地酒は自慢である。昔は一個の炭釜を家族3人で焼いていたほど炭焼きが盛んで、山林をほとんど使い切ってしまったため、土砂災害が度々起きた。明治35年5月17日、山に出かけた住民が山肌で亀裂を発見した。18日夜、突然雪どけ水の多い川の流れが止まった。住民が奥山へ調べに行ったら、土砂で谷が塞がれていた。2日間で自然ダムが出来てしまった。住民はいち早く高いところに小屋を建てたり、集落外へと避難したりした。19日大音響とともに「やまのけ」（崩壊）が発生。40戸のうち30戸と田畑が流された。残念なことにひとりの老人が山菜取りに行き、災害にあった。災害復旧には近隣の集落から多大な支援があつて、代々忘れられないご恩に感謝している。その後住民は田畑を改修し、大正9年から堰堤工事がはじめられ翌10年に第1号ができた。

浅田氏 教育委員会が平成10年文化財案内人養成講座を開催した。受講生25名で山城町案内人の会を結成した。砂防遺産を紹介するデレーク「修験と治山」では詳しいものはないが、言い伝え、伝説などを掘り起こしたのが特徴である。

案内人はいろんなキャリアで結成して

いる。女性も6名参加している。山城町は開発が遅れているために、多くの遺産が遺った。それを維持しながら子孫に残していくのがわれわれの使命である。また、近隣の町や市のガイドたちともリンクしている。地元の人や小中学校にもいつでも対応できる体制でいる。メンバーがお互いにフォローしあいながら親睦を重んじ、和気あいあいと活動している。来訪者から教えていただくことが多い、

澤田氏 歴史を掘り起こし、それを維持しながら将来にどのように遺していくべきか。

飯田氏 人と自然の関わり方で一番象徴的なのが砂防であるといえる。屋内の博物館は外から大切なものを取ってきて屋内に閉じこめて観せてきた。それはそれでいいところがある。短い時間にまとめて観れる。資料が整理されて保存される利点がある。しかし限界がある、持ってこれないものもたくさんある。野外にあ

- 澤田豊明（さわだ とよあき）
助教授・工学博士
京都大学防災研究所穂高砂防観測所
岐阜県上宝村
- 飯田肇（いいた はじめ）
学芸員
立山カルデラ砂防博物館
富山県立山町
- 丸山与一郎（まるやま よいちろう）
砂防文化財を活かす地区懇談会代表
新潟県新井市西野谷（万内川砂防公園）
- 浅田周宏（あさだ かねひろ）
山城町ふるさと案内人の会代表
京都府山城町（不動川砂防歴史公園）
- 伊藤喜右エ門（いとう きよえもん）
田倉川と暮らしの会代表
福井県今庄町古木（アカタン砂防）

るものを野外の雰囲気で見ることが大事だ。そよ風の中で水の音を聞きながら本来ある場所で観る。ところが、箱物をつくらなくて都合がいいと名前だけのフィールド・ミュージアムが全国で増えてしまった。それだけではフィールド・ミュージアムは機能しないし、観てくれない。大切なのは、インタープリターすなわち翻訳する人、語り部が大切である。熱っぽく、楽しそうに語ることが大切である。看板パネルも必要だが、看板は200字以上の文字は99%ほとんど読んでくれないことがわかった。200字以下でも丁寧に読んでくれない。説明導入してからなら読んでくれる。例えば、何か解らないが、凄そうだ、面白そうだといった伝えたいことを動機付けすることが必要だ。そのあとは興味を持った人に情報をいっぱい持って帰ってもらうことで波及効果を生む。

澤田氏 民話、語り部など無形のものはどうやって遺していけばよいか。

伊藤氏 語り部は故老2人と私でそのあと50代3人が引き継ごうとしている。総勢6人である。

丸山氏 これまで毎年砂防工事が継続され、15年前砂防公園ができたが認識がなかった。昨年文化財に登録されて初めて、砂防施設を遺産として活かし、地下水を大事に使おう、清流を交流の資源にしたいと、行政に負んぶしてきたが、今後は私たちの取り組みだと思っている。

語り部を育てるのはこれからだ。

浅田氏 語り部は25名で内3名は教育委員会です。全部の遺跡を語るのは難しい。

年号まで正確に覚えるのは困難なので、おおよその時代でいい。質問があれば後ほど調べて伝えればいい。あまり専門家にならなくてもいい。とにかくやってみることが大事だ。常にガイドツアーに参加することも必要だ。

澤田氏 NPOの語り部と行政の語り部との違いは

飯田氏 館には5名の学芸員がいる。それぞれ専門の学芸員が得意な分野に走ると偏ってしまう。また、立山カルデラ見学は1日かかるので5人では無理である。

そこでボランティアの解説者会員を養成した。まず、官と民20名が議論してガイドのコアグループをつくった。次に、「体験学習会の解説委員になりませんか」と公募した。たくさん集まった。研修会をしながら、50名のボランティアが誕生し、



新井市西野谷に古くから伝わる男性だけが踊る伝統芸能「春駒」が披露された。(写真撮影田中)

館のスタッフになりつつある。館内の専門家も必要である。砂防の細かい知識が必要なときは砂防ボランティアや、砂防行政OBに対応してもらう。5m歩くとその花の名前を聞かれる。それらに対応することも必要になる。5年かかってここまで来たが、行政の限られた構成員では得られなかった、思いも寄らない波及効果が現れた。できるだけ多くの方を取り込んでいきたい。

質問 無償のボランティアは難しいのではないかと。

浅田氏 今年から、3~500円ほど交通費実費を支給している。1000円出すと励みにもなる一方、もらうことで勉強しなければというプレッシャーを持たせることも考えたが、やはり自由にとのことで交通費だけにした。持続させるためにも支給したいのだが。

丸山氏 砂防公園だけでなく、ほかの文化財を含めて語り部は必要と思う。観にきてもらいたいはまだ先が見えない。足りない物があるのではないかと。砂防施設を活かして地域を活性化させるためには、

①展示物、子どもたちニミ堰堤教材、語り部も含めて、住民が役目を知ってもらう仕掛けが必要 ②遊べる施設づくり ③食材を提供して喜んでもらう。それらを軽視してきた、何でここに堰堤があるのか、どんな生活をしてきたのか住民がわかっていなければ伝えられない。語り部は必要だ。

澤田氏 今庄町そば祭りに2万人集めたコツは

西村町長 そば祭りも今年で17回目を迎えた。今庄は古くから交通の要所、宿場まちであった背景から今庄そばが名物となった。これを若いも若者も引き継いでいる。祭りには23の集落から独自のそばの店が競って出店した。

澤田氏 アカタンにはどれほどの来訪者があるか

伊藤氏 新聞に載ってからは少しずつ増えたようだ。リトリートくら施設に説明できる者をおいて、解説してから堰堤に行ってもらうようにしたい。1室お借りして資料を展示している。語り部は金取るところまで行かない。

澤田氏 砂防施設を観るだけではだめだ。砂防ダム巡りで、山菜をもらえとか、毎年続けてこなければ味わえないような仕組みがあるといい。たとえば、23種類のそばの味を楽しむためには23年かけてそば祭りに参加するシカケ。安全管理として保険はどうしているか。

飯田氏 危険箇所もあるので保険費など実費を頂く。危険な場所では活動を萎縮させてしまうので、フィールド活動がしやすいように実費をもらいたい。天候には慎重、当日朝に再検討して決行を決めている。

澤田氏 アカタンも危険なところがある。せっかく案内しても責任がかかってはいけないので検討していきたい。

浅田氏 保険は100名で5000円ボランティア会で掛けている。保険料は有料なら責任が重くなるので無料にしている。

丸山氏 新井には宿泊施設がありスキー客を捕まえるてるが、夏場の集客に苦労している。砂防公園の水辺空間を活かして「ゆらり館」客へのサービスに知恵を出し合い考えていきたい。

澤田氏 後世に遺すものは、人が気つかないものを掘り起こすことも大事だが、活動や生活の経緯、瞬間的なものも遺していく工夫があるといい。いろんな人の意見を聞く交流も大事です。

さらに「歴史的有形文化財」を守り・活用することも大事だが、我々が将来にこのような「歴史的有形文化財」を一つでも残せるように心がけることも重要である。